



AUE Monthly



2010年 6月 1日

第 23 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

目次

行事予定(6月)

トピックス

・第 41 回子どもまつり

・第 41 回大学祭

・学長がみよし市長と懇談

・商店街で作品展示の学生を取材

・高額寄付者の銘板を設置

・晋州教育大学生らが訪問, 歓迎会を開催

・食まるファイブのバランスべんとうが完成, 6
月に発売へ

・「火曜会」で地元各界代表者が来学

・豊橋東校生徒が来学

愛教人インタビュー

・地獄絵研究の鷹巣准教授

お知らせ・報告・投稿

・後藤教授監修の「中学生日記」放送

・文科省室長が 6 月 9 日, 本学で講演

・陸上競技部の学生が大健闘

・名古屋ボストン美術館は学生ら入館

無料。

・井戸准教授からのフィンランド便り

行事予定(6月)

- 1 日(火) 評価委員会(9:30~ 第三会議室)
名誉教授称号記授与式(11:30~ 第五会議室)
役員部局長会議(13:30~ 学長室)
- 2 日(水) 教務企画委員会(13:30~ 第二会議室)
大学改革推進委員会(15:30~ 第三会議室)
- 4 日(金) 財務委員会(15:30~ 第五会議室)
- 7 日(月) 経営協議会(14:00~ KKRホテル名古屋)
- 8 日(火) 役員会(13:30~ 学長室)
- 9 日(水) 代議員会(13:30~ 第五会議室)
教育研究評議会(代議員会終了後~ 第五会議室)
- 15 日(火) 役員部局長会議(13:30~ 学長室)
- 16 日(水) 教員人事委員会(13:30~ 第五会議室)
大学改革推進委員会(16:00~ 第三会議室)
- 22 日(火) 役員会(13:30~ 学長室)
- 23 日(水) 教授会(13:30~ 第一会議室)
- 30 日(水) 大学改革推進委員会(15:30~ 第三会議室)

トピックス

第 41 回子どもまつり(5/9)

「第 41 回子どもまつり」が 5 月 9 日(日), 愛本学で開催された。学生が主催してさまざまな体験型企画を準備し, 地域の小学生らを招いて, 楽しく触れ合うもので, 1200 人余の子どもが参加し, 構内は終日, 子どもの笑顔, 歓声に包まれた。学生の多くが教員を目指す大学ならではの伝統行事の一つで, 学生も普段接する機会がない子どもたちとの会話を弾ませ, 子どもの素



早い反応を楽しんでいた。

五月晴れのこの日、受付開始の午前9時前から子どもたちの行列ができ、第一体育館で行われた開会式では学生が注意事項などを説明し、元気にあいさつ。遊びが待ちきれない子どもたちは式が終わると同時にイベント会場がある第一共通棟へ向かって走り出した。

会場の教室で展開されたのはマイナス196度の世界を体感するコーナーや、オリジナルのろうそくを作る「わくわく科学実験」、シェフに頼まれた食材

を室内から探す「レストラン・パリの森～食材を探せ」、海底を探検して財宝を探す「すすめ！ももっころ探検隊」、障子紙を使った「折り染め」、「好きなキャラクターのお面作り」、「おもちゃをつくろう」、「人形劇」など子どもたちにとっては楽しい企画ばかり。人気コーナーには行列ができ、子どもたちは目を輝かせて学生の説明に聞き入る姿が見られた。

また、親子でお弁当を広げて屋外の芝生広場などで昼食、ピクニック気分を満喫。第一体育館では玉入れゲーム、バルーンショーが、第二体育館でもミニゲームが行われ、子どもたちは元気いっぱい走り回り、汗ばむ陽気の中、子どもたちは、休日の1日を心ゆくまで楽しんでいった。



第41回大学祭(5/12～5/16)



「新風～気持ち新たに～」をテーマにした「第41回大学祭」が5月12日(水) 16日(日)、本学で開催された。12日、13日はスポーツ祭で第一体育館、第二体育館や野球場などを会場にバスケットボール、バレーボール、ソフトボール、卓球などが行われ、学生はそれぞれの競技で気持ちのいい汗を流した。

週末の15日、16日が大学祭のメイン。両日も好天に恵まれ、構内各所にサークルなどがポテト、焼き肉、ジュースなどを販売する多くの臨時飲食店を出店。客を呼び込む学生の元気な声が響

き渡った。また、教室では寄席、書道展、漫画展、お化け屋敷、ダンシングカラオケ、アカペラなど盛りだくさんの企画が展開され、学生は普段の講義を忘れて大学の「非日常」を堪能していた。

図書館前には特設ステージがセットされ、吹奏楽、演舞、能楽、漫才など学生が主役になり、日頃の練習成果を披露した。16日午後には人気漫才のマシガンズ、ハマカーンが登場。早いテンポの毒舌やコントに集まった約200人の聴衆は時折、大きな笑い声を出して、拍手を送っていた。汗ばむ陽気の中、閉幕近くになると出店では、安売り合戦が始まり、楽しかった4日間を惜しむように呼び込みの声も大きくなり、賑わいの中で終了した。



学長がみよし市長と懇談(5/12)



松田正久学長は5月12日(水)、本年1月に市制施行したみよしの市役所を訪問し、久野知英市長と懇談した。学長は法人化後の状況や社会連携の取り組みを説明するとともに、3月に刈谷市と締結した包括協定を紹介し、同様の包括協定締結を提案、連携強化を要請した。

市長は、同市内の愛知大学名古屋キャンパスが2012年に移転、約20%の土地利用が課題になることなどを話し、「市の諮問機関委員などこれまでは愛知大学の先生に依頼するケースが多かったが、これからは疎遠になる可能性が高い。愛教大さんからの提案は私どもにとって大変ありがたいこと」と歓迎。学長が「協定締結によ

って組織的に、双方向の連携を深められればありがたい」と話すと、市長は「実現すれば本市として大学との協定は初めてになる。早いほうがいい。検討の上、連絡させていただきたい」と締結に意欲をしました。この日の訪問には、横地正喜理事が同行した。

学長の近隣市長との懇談は3月19日(月)に豊明市を訪問したのを皮切りに、安城、知立、豊田の各市役所を訪問し、市長と懇談。今回で5市目となる、みよし市役所訪問で一連の懇談を終了した。

商店街で作品展示の学生を取材(5/13)

野外彫刻プロムナード展 10周年記念事業「ten stages彫刻フェスタ」が6月15日(火) 27日(日)、知立市文化会館パティオ池鯉鮒で開催される。これに合わせて本学の美術選修・専攻の学生が同市の旧東海道の商店街の各店とタイアップして開催する「おさんぽ展」の準備が着々と進んでいる。本学学生が商店街とのコラボレーションで展示するのは今回が初めてで、学生の代表が5月13日(木)、報道各社の取材を受けた。



フェスタはこれまで本学の卒業生らが参加してきた第10回野外彫刻プロムナード展(同文化会館エントランスロードで開催中)を記念したもの。期間中、アートディレクター、北川フラム氏の「美術によるまちづくり」をテーマにした講演、シンポジウム(6月26日)や記念展覧会、本学学生によるワークショップなどが開催される。

「おさんぽ展」は知立市山町、中町の街道約800mの商店街で開催。本学の3、4年生を中心に2年生も含む24人の作品展。彫刻、絵画、工芸品などの作品で、学生は11カ所の店主らに展示スペースを借りる交渉を行い、展示空間を確保し、テーマなどを考えながら作品を制作してきた。



記念事業事務局広報担当で4年の近藤友貴さんによると、旧東海道は普段通行人も少なく、先着順でオリジナルエコバッグがもらえるスタンプラリーも実施するため店主も客足の回復に期待。学生も店主らとの交流を通して成長できたという。近藤さんは「われわれは場所を借りて作品を披露できる上に、相手を探して交渉するなどすべて自分で行動し、自分の世界が広がりました」。指導する宇納一公教授は「協力していただく店は歯科、料理店、洋品店、花店、

会社、美容院などさまざま。学生がそれぞれの店主らに声を掛けて作品を置かせてもらう交渉を通してコミュニケーション力を高める狙いもあります。ぜひ多くの人に商店に入って作品を見ていただきたい」と話していた。

晋州教育大学生らが訪問、歓迎会を開催(5/13)

5月13日(木)から7日間の日程で、本学協定校の韓国・晋州教育大学から学生交流プログラム事業として、姜洪在(カン・ホンジェ)准教授の引率により、学生12人が本学を訪れた。

「日本文化研修」で13日、一行は本学に到着後、松田正久学長を表敬訪問。同日夕、本学主催の歓迎会が昨年10月に設置された国際交流センター1階のロビーで開催された。歓迎会では松田学長が「昨年10月にソウルでの日韓教育系学長会議の後、晋州教育大学を訪問し、素晴らしい時間を過ごせた。

また今年は日韓併合100年に当たります。アジアの一員として、民族を超えて平和的友好を深めていくこと求められており、両大学の学生諸君が国を超えた友好関係を築くことが重要」とあいさつ。村松常司国際交流センター長の乾杯で会が進められた。歓迎会には、学生及び教職員、更にはホームステイでお世話になった「ヒッポファミリークラブ」のご家族の方も参加し、盛大に行われた。

一行は、大学祭での学生交流をはじめ、知立市立知立東小学校への教育実習、日本人家庭でのホームステイ、京都市内の見学など盛りだくさんのスケジュールを精力的にこなした。

知立東小学校では、学校の概要説明を聞いた後、3限に授業参観をし、4限には5・6年生を対象に韓国の伝統的な遊びである「カンガンスレ」をテーマに授業を行った。チャンゴのリズムに合わせて歌いながらみんなで輪になって遊び、児童たちとの交流を深めた。児童とともに給食を食べた後、体育館において和太鼓部の演奏を聴いたり、韓国のダンスを披露したりした。短い期間の研修ではあったが、日本の学校教育への理解も深まり、とても有意義な研修となった。

なお、この秋には、本学の学生が韓国(晋州市を中心に、釜山市)へ行き、晋州教育大学の学生たちと交流するプログラム(学生が自ら企画立案し、行動する)も計画されている。



高額寄付者の銘板を設置(5/14)

本学の教育研究基金に900万円を寄附した愛知県稲沢市の本学卒業生で長年、教員を務めた木全満雄さんと妻、實子さん(いずれも故人)の氏名を書き込んだプレートができあがり、5月14日(金)、本学講堂ロビーの教育研究基金の寄付者銘板に取り付けられた。

木全さんの遺産を受け継いだ愛知県内の友人の子息が故人の遺志を尊重して本学に寄附したもので(詳しい経緯はAUE Monthly第22号に掲載)。900万円は1回の同基金への寄附としては最高額。

この日、「木全満雄 實子」と刻まれたプレートを基金担当の神谷和征法人運営課課長補佐が



銘板にはめ込み，本学にとって貴重な寄付者の名前がまた一つ増え，永久に残ることになった。浄財は「木全満雄 實子基金」として外国からの留学生支援などに役立てられる予定。

食まるファイブのバランスべんとうが完成，6月に発売へ(5/14)



本学の西村敬子教授（家政教育講座）の研究室から生まれた食育キャラクター「食まるファイブ」が今度は弁当になり，商品が5月14日（金）に完成した。「しょくまる5バランスべんとう」「しょくまる5おにぎりセット」の2種で，食育月間の6月中旬以降，愛知，岐阜，三重の東海3県内のイオンリテールおよび同3県と静岡県の一部を含む地域のコンビニ「ミニストップ」で約1カ月間の予定で販売される。

食まるファイブは「りきまる」（主食）「ベジまる」（副菜）「にくまる」（主菜）「フルーツまる」（果物）「ほねまる」（乳製品など）で色はりきまるから順に黄，緑，赤，紫，白の5色。西村研究室の大学院生が2006年に「食事バランスガイド」にちなんだ5色の栄養指導手袋を考案したのが始まり。知立市の小学生が命名した「食まるファイブ」はその後，表情が豊かになり，研究室はファイブが協力してメタボ將軍を倒す絵本を制作。愛知県食育推進課がこれに注目して絵本を県内の全小学校に配布した。また，ファイブは小学校での劇となり，小学生がファイブを演じるなどして，その名が広がり，さまざまな食まるグッズも誕生，学校ばかりではなく市民の中で定着してきた。

今回企画された弁当とおにぎりセットはキャラクターを全面に出した楽しいラッピングで，小学生をはじめとした子どもたちの食育を考えるとともに，女性や高齢者が食べてもおいしく，バランスのとれた食事ができるのが特徴。西村教授と大学院生，学生と関係業者が味付けにとことんこだわった逸品。バランス弁当は枝豆ポイル，りんごダイス，しらす，絹さやポイル，卵焼き，キャベツ炒め，切り干し大根，ナスのピザ風焼き，肉団子や鶏照り焼きなど調味料も加えると40種の素材が凝縮されている。重量307g[㌘]のうち野菜は約30%，100g[㌘]が使用されるなどボリュームもあり，ひと味違う味覚に加えてヘルシー。398円。おにぎりは，ファイブの色を丸型おにぎりに配したユニークなおにぎりです。卵焼き付きで250円。

西村教授らはこれまで企画，仕入れ，販売などの各社と交渉，弁当の試作品を作っては試食を繰り返して味を調整してきた。5月14日（金）午後，同研究室で学生も交えて最終的な試食会が行われた。味の評価は上々で，「店頭に並んだあと，購入するリピーターが増えてくれれば」と期待を膨らませ，販売にゴーサインが出され，業者は最終準備に入った。

「火曜会」で地元各界代表者が来学(5/25)

地元刈谷市の各界代表者らで構成する「火曜会」が5月25日（火），本学で開催された。郵便局，高校，JR東海，警察署，税務署，愛知県出先機関などの刈谷市内にある22機関が加盟し，会員の各機関が持ち回りで年数回意見交換，施設



見学などを行っている。この日は16機関



の代表，代理と松田正久学長はじめ本学理事らが出席した。第三会議室で開会し，出席者が自己紹介した。

当番機関を代表して松田学長が歓迎のあいさつに続い

て、プロジェクターを使って国立大学、本学の現状に加えて「地元の各機関と連携を深めながら地域の中で存在感のある大学を目指しています」などと語った。大学院に関する質問があり、学長、折出健二理事が博士課程設置計画について説明した。

このあと、一行は附属図書館を見学。三宅育夫情報図書課長が館内を案内。江戸時代に寺子屋で使われた書物や昭和時代の教科書などが並べられた書庫（普段は入れません）では参加者がそれぞれ手にとって懐かしそうに見入っていた。1時間余の短い会だったが、次回は7月に刈谷郵便局での開催を確認して解散した。

豊橋東高校生徒が来学(5/26)



愛知県立豊橋東高校の生徒らが5月26日（水）、本学を訪問、入試ガイダンスなどが行われた。訪問したのは同校の2年生124人と教員ら約130人。訪問した高校生の人数としては本年度最多。

ガイダンスでは稲垣敏之入試課長が大学概要、入試について説明。続いて折出健二理事が特別模擬授業を実施した。同理事は「教育について考えよう」をテ

ーマにいのちの授業、教育学部で学ぶことなどを45分話し、生徒らは真剣な表情で聞き入り、メモを取るなどしていた。

この後、生徒らは附属図書館、第一福利施設、サポートセンター、キャリア支援課など学内を見学、それぞれ豊かな自然に囲まれたキャンパスライフに思いを巡らせていた。

高校生らの本学訪問は6月以降も予定されており、現時点での1回の生徒訪問者数の最多になるのは7月来学予定の200人。



愛教人インタビュー

地獄絵研究の鷹巣准教授



「地獄絵」についてユニークな研究を続けている鷹巣純准教授（美術教育講座）は6月、名古屋市内で市民向けトークショーを相次いで行う。「この時期にお呼びがかかる季節労働みたいなもの」と笑う准教授に地獄絵の「魅力」「魔力」などについて聞いた。

夏の幽霊シーズンに向けて引っ張りだこ、ですか。

「そう、TUBE（チューブ）と活躍するシーズンは一緒ですね」

2回のトークショーの概要は。

「6月19日午後1時半から名古屋市千種区

仲田2の浄願寺で「映像と音で探る東西の地獄絵の旅 神曲と六道絵」を開催。私が地獄絵について話し、愛知県立芸術大学の水野留規准教授がダンテの神曲における地獄・煉獄について音楽演奏つきで語り、シンポジウムも行います。6月26日午後7時からは中区大須の大須仁王門ビル2階、モノコトで開催するのはコンクリート仏像造形師、浅野祥雲氏（故人）を研究しているフリーライターの大竹敏之氏とのトークです。スライドショーもあります」

見どころ、聞きどころを。

「ダンテの方は水野さんが衣装に凝っており、私も閻魔さまの衣装を着て登場するつもりです。大竹氏とのトークはいわゆる仏教美術の周辺を語り合うものです。地獄絵は人の欲が絡み、容赦のない責め苦などを連想させますが、絵がうまく描かれず、上品でない仏教美術がテーマになるところにその魅力があると思います」

研究を始めたきっかけは。

「小学校4年の夏休みに買ってもらった日本妖怪図鑑が原点ですね。この世ならざるものに関心を持ったのですが、本の中の妖怪のバリエーションに興味をそそられたのかもしれない。想像力を制御するものは何もない状況でしたから」

20年以上進めてきた地獄絵研究の面白さとは。

「地獄は苦しみの、救いのない世界だが、文献を調べて作品分析を進めていくうちに、地獄を一度通過して極楽へ行けるといふ死生観があったことがわかってきました。仏教は（人間の）行き着く先があのだと、地獄は死後の世界に存在するとされたので、地獄を通り抜けて極楽へ行くとするのは仏教伝来以前に始まっていたのではと考えています。こうした2つの見方などを説明したくて研究しているんですよ」

地獄絵が浸透した時代、背景は。

「江戸時代は2つの見方の擦り合わせが終わった時期だと思います。そして、熊野比丘尼が全国で地獄絵の絵解きをします。彼女たちが用いたらしい地獄絵は50点ほど残っていますが、代表的なものには太陽と月、四季、人の一生や地獄の炎などが描かれています。これを語ることで、聞く人は死んだ自分の親兄弟を思い、地獄から救う方策を比丘尼に聞くなどしていたのかもしれない。ただ、地獄絵の中には農作業にいそしむような表情の鬼も描かれ、ある種の楽しさも。楽天的な国民性に通じるのかもしれないね」

妖怪、地獄の話聞いた人の反応は。

「地獄絵の効果は倫理観の醸成では。9年前に富山で地獄絵展を開催しましたが、親子連れが多く、会話が増えているのを実感しました。僕の授業を受けて先生になった人が地獄絵の話をすると児童が素直になったといいます。ブラジルの子どもにも同じ効果があるようです。人を殺してなぜ悪いかの理由は子どもに理解できないかも知れないが地獄絵を見て規範を覚える。将来の教員に地獄絵を教える僕のような人がいてもいいかも」

学生へのひと言、先生の抱負を。

「妖怪ブームだからと関心を持ってもらってもいい。地獄絵の中から楽しいものを見つけ出してくれればうれしいですね。代表的な地獄絵の分析はあと1,2年で終わるので、その後は想像の翼を広げて死後世界全体像のビジョンを探っていきたい」

お知らせ・投稿・報告

後藤教授監修の「中学生日記」放送

本学の後藤ひとみ教授（養護教育講座）が監修したNHK教育テレビ「中学生日記」の保健室シリーズが6月5日（土）から3回にわたって放映されます。第1話（1438回）～第3話（1440回）で、後藤教授に見どころなどを寄稿してもらった。

6月5日（土）から保健室シリーズが放映されることになりました。しかも、男性の養護教諭が登場します。舞台になっている仮想の東桜中学校には、野並先生という女性の養護教諭がいるのですが、3カ月の県外研修で東京に行く



ことになり、その期間の臨時養護教諭として、なだぎ武さんが演じる八田先生が登場するという設定です。

「中学生日記」は、今年で 49 年目を迎える長寿番組です。ご承知のとおり、NHK 名古屋の制作で全国に配信しており、中学生役に名古屋市の中学生たちを起用しているところに大きな特色があります。そのチーフ・プロデューサーから、「以前、お聞きした男性養護教諭を登場させたいので相談にのってほしい」との依頼を受けたのは今年 3 月のことです。愛知県下で初の男性養護教諭として経験を重ねてきた本学卒業生とともに取材を受け、監修者として 4 回、5 回と修正に修正を重ねてきた最終稿の内容を確認するという貴重な体験をさせていただきました。

第 1 話（6 月 5 日）は「保健室ウォーズ」です。保健室をめぐる女子グループと男子グループが対立しますが、「保健室はみんなのものだけど、その時一番困っている仲間のために譲り合わなきゃ。」「保健室のドアは、いつでも開いているから。」という八田先生の言葉が光ります。

第 2 話（6 月 12 日）は「オタクと恋と金髪と」です。ゲームオタクの 1 年生男子が、よく保健室で休んでいる 3 年生女子に恋心を抱きます。保健室には不良と言われている 3 年生男子も来るようになりますが、八田先生の「絆創膏なんだよ、保健室は。外のものから傷を守る。だけど傷を治すのは自分自身だ。ゆっくり休んでゆっくり治して...、楽になったら出て行けばいい」という言葉で立ち直っていきます。

第 3 話（6 月 26 日）は「初恋クロール」です。病気で 3 歳の時に右下肢を切断し、義足をしている 1 年生男子が水泳部に入ることで生徒たちの心が揺れます。この男子生徒を励ます中で、八田先生が養護教諭になった経緯をさらりと語ります。そして、「先生は、僕の担任でもないのに、何でいろいろとしてくれたんですか？」という生徒の問いに答える八田先生の言葉がラストを飾ります。



第 2 話と第 3 話のリハーサルに、大学院生（中学校および高等学校の養護教諭）2 名と名古屋市の小学校養護教諭 1 名の 4 人で収録スタジオに行きました。担当ディレクターを中心に 10 人以上のスタッフが集団で動いていました。私も一員になったようなつもりで参加させていただき、あっという間の 3 時間を過ごしました。不良役の生徒を演じていた少年のひたむきな瞳や、義足を外したり着けたりする少年の自然な仕草、そのお姉ちゃんの迫真の演技が印象に残りました。たくさんの時間をかけて取材し、たくさんの人が懸命に準備し演じることでドラマが作られていくことを実感

しました。保健室のこと、養護教諭のことに注目した素敵な 3 話になったと思っています。ぜひ、ご覧ください。そして、「もっと保健室シリーズが見たい」「もっと養護教諭の先生を登場させて」といった感想を「中学生日記」に届けてください。その言葉は養護教諭を目指す学生たちのエネルギーになるものと確信しています。

なお、同番組の放送時間などは次のとおりです。

<チャンネル・時間> NHK 教育 TV / 夜 7:15 ~ 7:45

<再放送 / 中部地区> 翌週土曜日 NHK 総合 TV / 朝 10:05 ~ 10:35、< 中部地区以外 > 翌週土曜日 NHK 教育 TV / 13:00 ~ 13:30

文科省室長が 6 月 9 日、本学で講演

文部科学省大学振興課教員養成企画室の渡邊倫子室長が 6 月 9 日午後、本学で講演する。本学の学生、教職員対象の講演で、午後 4 時から本学第二共通棟 3 階 431 教室で開催。渡邊室長は「教員養成の課題について」をテーマに約 1 時間講演し、その後、参加者との質疑応答も行われ、午後 5 時半ごろ終了する予定。

教員養成制度は政権交代でさまざまな議論がなされ、改革の行方には、本学構成員はもちろん、教育関係者にとっては今、最も関心の高いテーマの一つ。渡邊室長の講演内容が注目される。担

当者は「学生，教職員はぜひ会場に足を運び，室長の話に耳を傾けてほしい」と呼び掛けている。

陸上競技部の学生が大健闘

本学陸上競技部部長の筒井教授から同部の成績の報告が入りました。学生の健闘を称え，今後のさらなる活躍に期待したいと思います。報告は以下のとおり。

東海学生陸上競技対校選手権大会が5月14.15.16日に、名古屋市の瑞穂運動公園陸上競技場で行われました。愛教大は男子総合得点で2位（1位中京大、3位岐阜経済大）、女子総合得点で3位（1位中京大、2位至学館大）でした。男子の2位は、15年ぶり、女子は2位の至学館（元中京女子大）との差を昨年の60点差から30点差に詰めたものの、3位のままでした。

個人では、女子走幅跳と三段跳で渡邊千洋（体育4年）が、男子400mで中野弘幸（体育4年）が、女子400mHで愛敬世菜（体育2年）が、女子棒高跳で井上裕生（体育3年）がそれぞれ優勝しました。

また、5月3日に小笠山総合運動公園静岡スタジアムで行われた静岡国際陸上競技大会において、中野弘幸が、46秒42の東海学生タイ記録を樹立し、東海学生陸上競技連盟から表彰されました。

（筒井 清次郎）

名古屋ポストン美術館は学生ら入館無料

名古屋ポストン美術館（名古屋市中区金山町1）は本学の学生，教職員なら誰でも無料で入館，自由に鑑賞できる。本学が法人賛助会に入っており，2011年5月31日まで加盟を更新した。同館で学生証，職員証を提示すれば無料で，いつでも入館できる。会員としての特典が全ての該当者に浸透してないこともあり，担当者は「学生，教職員の方は名作を無料鑑賞するチャンスを十分に活かしてほしい」と話している。

同館では現在，展覧会「ザ・風景 変貌する現代の眼」を開催中（9月12日まで）。画家の目を通して表現された自然の美しさ，雄大さや都市の何気ない風景は，私たちがいかに自然とかわかり生きてきたかを映し出しており，そのあり方を考えるきっかけを与えてきました（同館のホームページより）。同展はポストン美術館所蔵のホックニー，リキテンスタインなど20世紀から現代にかけて活躍する画家の表現を楽しむことができる。

井戸准教授からのフィンランド便り（投稿）

先日5日間程24度を越える日が続き、春を通り越して一気に夏になったのかと思いきや、それは一時的な異常気温で再び10度前後に戻ってしまいました。しかしそのお陰で一気に新緑が芽吹き、街は緑で豊になりました。さらに大学前には桜の木があり、たった3日間だけでしたが、少し日本のものとは違う花が咲きました。異国で桜を見ると何だか嬉しくなるものです。

さて、本日はヘルシンキの交通事情について書きたいと思います。まず、ヘルシンキにいる限り自家用車がなくても充



分生活出来るくらい公共交通機関が充実しており、VRと呼ばれる鉄道会社が運営する地上の列車、HKLと呼ばれるヘルシンキ市交通局が運営する地下鉄、トラム（路面電車）、バスがあります。VRは北部を除くフィンランド全域をカバーしており、日本で言うところのJRに近いものです。基本的には長距離移動に利用されるものですので、ヘルシンキで生活している限り普段は余り乗ることがありません。日常生活で良く使われるのは地下鉄とトラム、バスで、特にトラムは一駅間（200m程）

でも乗る人が沢山いるくらい手軽で便利なものです。

ヘルシンキに住み、勤めている所や通っている学校などがあるとトラベルカードと呼ばれるパスを購入することができ、これを持っていると VR を含めた市内全ての交通機関を自由に乗ることができます。また駅には改札がなく、チケットやパスを確認せずに乗ってしまうことから無賃乗車も多いようで、良く抜き打ちで職員が車内を検札に来ますが、もし無賃乗車が発覚すると容赦なく 80 ユーロの罰金となります。

私はトラムののんびりしたところが好きで、大学には少々時間が掛かりますがトラムで通勤しています。感心するのは女性の運転手が多いことです。日本では多くは見ない女性の運転手ですが、ここフィンランドでは半数以上が女性運転手だと思われます。また、最近は観光客が増えて来たこともあり、トロツコのような開放的なトラムや、パブになってお酒が飲めるトラム、クラシカルなトラムなど面白いトラムを良く目にするようになりました。これらはいわゆるラッピング車両として車両全体が広告になっているものや、窓面に貼られた広告（車内からは外が見えるようになっている）などによって、商品宣伝の媒体にもなっています。日本では多くの路面電車が廃線となり残念に思っていますが、こういった工夫によって利用客や資金を充実させることができる可能性があるという好例をここでは見ることが出来ます。是非日本の多くの都市でも再び路面電車が走ってほしいものです。



(井戸 真伸)

編集後記

本学学生らによる活気に満ちた恒例行事「子どもまつり」「大学祭」が終わると、夏は目の前に迫ってくる気がします。新入生もキャンパスライフに次第に馴染んで、皆、勉強に、サークルにと夏休み前のひと踏ん張りに集中しているように見えます。そして自分が頑張った分、成果への期待は膨らみ、夢は夏へと持ち越されていくのでしょうか。今号は6月に行われる話題もいくつか先取りして紹介しています。中でも学生主体のイベント「おさんぽ展」開催と「食まるファイブ弁当」販売はいずれも「お客さん」の反応、評価が注目される所です。これまでの大変な準備や試行錯誤ぶりを陰ながら見守り、応援してきた広報担当としてはぜひ、成功してほしいと願っています。記事をご覧になった皆さんも展示会場に足を運び、本学のロゴ入り弁当を食べて、こうした活動を支えていただければありがたいと思います。(N)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

編集責任者:総務担当理事 折出 健二